

植物をもっと個性的に飾るには？

www.elle.com/jp/decor/

ELLE DECOR

30
Years

JAPAN

no.175

エル・デコ
JUNE
2022
the world's
leading
design &
lifestyle
magazine

鹿児島 睦さんのアートに浸る
特別な場所へ

LIVING WITH
GREEN

植物空間術

"昭和なグリーン"を
鉢選ひてフレッシュに

知っておきたい！
若手デザイナー30

欲しいのは
コンパクトな家具

湖畔の眺めと暮らす家
特別なキッチンがある幸せ
おいしいインテリア研究

Tommaso Nani

Kinya Tagawa

Noa Ikeuchi

Jin Kuramoto

Teruhiro Yanagihara

Kensaku Oshiro

ELLE DECOR

30
years

Who is

「エルドだ」と捉えていた若い才能に、エールを送ってきたのだと思います。それはグローバルメディアだからこそできる応援でもあり、自国をよく見つめ、同時に国境を越えて、デザイナーの新しいミッションを探そうとする試みへの共感でもあります。

時代が大きな曲がり角を迎えた2022年2月24日以降に感じることは、21世紀のデザイナーは、20世紀とは違う使命があるということ。この状況から新しい社会的課題が生まれざるを得ないし、デザインの領域を定義し直す試みも、さらに加速することでしょう。困難な時代にこそ、果敢に世界に挑戦して欲しいと思います。

エル・デコ日本版30周年企画

知っておきたい！ 世界の若手デザイナー30

モダンデザインの歴史を30年間見つけてきたエル・デコ日本版が、次の時代をつくる若手デザイナー30人を選出。この先のデザインは、もっとおもしろい！

Realization TAKAHIRO TSUCHIDA(p.86-97) Text SHIYO YAMASHITA(p.84-85), TAKAHIRO TSUCHIDA(p.86-87,94-97), YOSHINAO YAMADA(p.88-93), CHISATO YAMASHITA(profile)

Next?

“日本の優れた才能と世界をつなげるのがエル・デコ ジャパンの仕事のひとつ”

エル・デコ ブランド ディレクター 木田隆子

2009年、私たちはEDIDA（エル・デコインターナショナル デザインアワード）の日本版ノミネートに合わせ「ヤング・ジャパニーズ・デザイン・タレント賞」を創設しました。EDIDAではこれまで深澤直人さん、吉岡徳仁さん、nendoの佐藤オオキさんがデザイナー・オブ・ザ・イヤーに選ばれていますが、世界25カ国の編集部が推す国際的な候補の中で日本のデザイナーが存在感を感じるのは大変なこと。そこでわれわれも、自国の優れた才能を世界とつなげる活動と考えたのです。

初年度に受賞したTakramは、デザイン、エン지니어リング、ビジネスをひとつにしている新鮮さから選出したことを今も覚えています。12年には4人が受賞しましたが、倉本仁さん、田淵智也さん、角田陽太さんは「ジャパングリエイティブ」でR&Dとして海外のトップデザイナーと協働する中で知見を深めていたし、柳原照弘さんは活動当初からグローバルな視点を持っていました。また、16年に受賞したMissiotoや武内経至さんはミラノと東京を行き来して活躍中。辰野しずかさんはロンドンでの体験を背景に、日本の伝統とモダンデザインを独自の感性で結びつけ、17年受賞のwe+は、コンテンツポラリティーデザインという新領域を世界視野で開拓しています。振り返るとアイデアの良さや挑戦する力に加えて、世界を自分のフイー



26. Marcin Rusak

マルチン・ルサク



植物のポテンシャルを解き放ち
誰も見たことのない表現を生む

100年以上も花の栽培を続ける家に生まれたマルチン・ルサクにとって、花とはインスピレーションとデコレーションの原点。そのはかない魅力に着目し、花を樹脂で固めて多様なアイテムを製作する。従来の美しさの枠にとられない、生命感あふれる表現が斬新だ。

Profile 1987年ポーランド、ワルシャワ生まれ。2006~'09年ワルシャワ大学、'10~'12年アイントホーフェン・デザインアカデミー、'12~'14年RCAを経て、'14年に自身のスタジオを設立し、ロンドンとワルシャワを拠点に活動。marcinrusak.com

28. 荒木宏介

あらきこうすけ

自然との共存共栄を目指して
ユニークな作品で可能性を提示

大量生産、大量消費が前提のものづくりに否定的なデザイナーが増えているが、荒木宏介もそのひとり。ロンドン留学時の卒業制作で、食品廃棄物を用いた食器を手がけて注目された。その後も環境保全などの課題に向き合い、価値観の更新を促す作品を発表する。



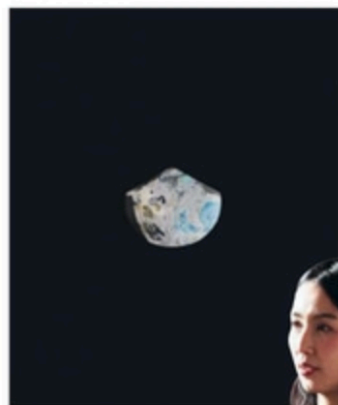
Profile 2010年多摩美術大学卒業。'13年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修士課程修了。Lexus Design Award '16グランプリ(共作)。作品はMoMAやV&Aに所蔵。kosuke-araki.com

27. 本多沙映

ほんださえ

ジュエリーの延長線上に生まれた
コンセプチュアルなオブジェ

本多沙映はオランダに留学し、コンセプトも表現も共に美しいデザインの意義を知った。道端などで見つけたプラスチックでつくる人造石のオブジェ「Everybody Needs a Rock」は、その経験から生まれた作品。石の姿に多様なメッセージが込められている。



Profile デザイナー、ジュエリーアーティスト。2010年武蔵野美術大学、'16年ヘリット・リットフェルト・アカデミー卒業。作品はアムステルダム国立美術館などに所蔵。saehonda.com

29. Laila Gohar

レイラ・ゴハー

食を起点にデザインを楽しみ、
クリエイションの壁を越える

レイラ・ゴハーは、そのスタイリッシュなライフスタイルでも関心を集める、ニューヨーク在住の新進フードデザイナー。パンのソファなど、食材を用いたインスタレーションを行うほか、ミラノデザインウィークへの出展や、HAYとのコラボレーションなど、新世代ならではのスタンスで活躍の幅を広げる。



Profile エジプト・カイロ出身。2010年~ニューヨークを拠点にフリーランスとして活動する傍ら、'13年にはケータリング会社Sunday Supperを設立。lailagohar.com



Profile ブラジル出身。2011年に卒業を終えて以降、'17年には、オフィチーネ・パネライ次世代デザイナー最終選考に残る。pedrovenzon.com



ペドロ・パウロ・ヴェンゾン

30. Pedro Paulo Venzon